

## 令和4年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和4年10月14日（金）

地区 元中野町・旭町地区

会場 元中野町総合福祉会館

### 〈意見交換〉

◆市民 いいですか。

○司会 はい。今マイクを……。

◆市民 何年か振りだと思えますけど、私から取りあえず、船見町内会で今回[ ]をやることになりました。よろしくお願ひします。まず、7番目のほうの、船見町7番目のほうの、これなんですけども。通学路のところは40キロになっております。その前が30キロで。これについてはもう一度プッシュしていただきたいと思ひますので、申し訳ないんですけども、ちょうど通学路のところは40キロになってるところが問題なんです。あそこをちょっと……。

それから、11、これ、事故を起こしたのが私なんですけども、申し訳ないと思ひます。けども、バツ、ちょっとこれは違ひますので。バツのところは事故が起きたって書いてあります。これですが、事故の起きたところは道路のJR側の道路の真ん中ぐらいで、横から来る車にぶつかりぶつけられたんです。私の右側ですか、右側に車がぶつかった、事故を起こした本人ですので、あれなんですけど。ここの一時停止なしで真っすぐぶつかってきたんです。ここ自体はちょっと広がってまして、この間もぶつけられそうになったというよりも、ここの1丁目公園のところ、我々の船見町の町内会館のほうからだと細いもんですから入ってきづらいいんです。それで、案外ここを走ってくる車がすごく多くなりまして、1丁目公園のところから曲がってきて真っすぐ。この間、私のところは、私、青パトだったもんですから、ドライブレコーダーをつけたんです。ドライブレコーダーに載ってましたけども、真っすぐスピードを落とさないでここを曲がってくるんです。ですから、絶対ここ、一時停止にしたいなということをお願いしたいなと思ひます。この2点で。特に、最初のところの事故のもとというのは、JR側の真ん中ぐらいのところ、真横に来たんで死ぬかと思ひましたけども、どういうわけか助かりました。申し訳ないんですけども、この2点については、もう一度、Bになってますけども、プッシュして、何とかやっていただきたいなと思ひます。どうもよろしくお願ひいたします。どうもありがとうございました。

ごめんなさい。ほかの点につきましては、非常に感謝しておりますので、私がいろんなこと言っていないがらよくもやっていただけたということで、非常にこの2年間、ありがたく思ひます。それはお礼を申し上げておきます。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。それでは、ただいま要望番号の7番と11番の道路の安全確保についてということで回答をお願ひいたします。

◎**市民生活課長** 市民生活課の畑島と申します。まず、先に7番の要望項目につきましては、苫小牧警察署のほうにお話はさせていただいておりますが、現在の考え方、速度規制の考え方で当て込みますと、これ以上30キロ規制の考え方には今現状としては難しいというふうに伺っております。しかしながら、地域の要望が続いておりますので、引き続き、こちらのほうについては市のほうから警察署、そして公安委員会のところへ要望を伝えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。また、11番の要望のほうにつきましては、先日■■■■のほうからも直接お話を伺っております。考え方としては、なかなか難しいということで聞いてはおりますけれども、ひとまずは、市のほうで注意喚起の看板のほうを設置させていただきまして、引き続き、一時停止のほうの要望もお話はさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

◆**市民** ありがとうございます。

○**司会** それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆**市民** いつもお世話になってます。新中野の■■■■と申します。今最初にテーマプレゼンいただいたところで、津波浸水のところで、1点お伺いしたいんですけども、垂直避難が新たに加わったということで、我々の住む新中野、あとは近隣の船見町、元中野、末広としても避難ビルが今ない状況で、9月末に恐らく町内会からそういう身近に建物があればということで提出してると思うんですけども、令和4年中に確定するということですが、具体的に町内での要望を出した建物の交渉というか、そういうところをどういうふうに進めていくか、町内の中でやっぱり高齢者が垂直避難できる場所がどうなるんだというのがすごく心配になってる部分があるので、その点の今進捗状況と、今後のスケジュール的なものが詳しく分かれば教えていただければと思います。

○**司会** ありがとうございます。ただいま、津波の垂直避難に関してということで、回答のほうをお願いいたします。

◎**危機管理室長** ご質問ありがとうございます。市の防災を担当しております危機管理室の前田でございます。今ご質問がありました垂直避難のための津波避難ビルの選定ということでありますけども、この点につきましては、この地区の津波の説明会というものを8月にさせていただきまして、その後、各町内会様のほうからもいろいろご要望をいただいております。新中野町内会のほうから、たしか3か所だったかと思っておりますけども、具体的な施設名を挙げていただきまして、こちらのほうで伺っております。今現在、私どものほうで、そういったほかの地域からも様々なそういったご要望をいただいておりますので、ぜひそういったことをまとめていながら、順次交渉を進めていこうというふうに思っております。特に、今回は民間のマンション、アパートですとか、あるいはホテルですとかそういったところのご要望も結構ありますので、まずはその関係する団体さんですね、宅建協会さんですとか、漁業の組合さんですとか、そういうところに全体の打診はさせていただいております。その上で全体の状況について、団体さんのほうでご理解をいただいた上で、個別のちょっと所有者の方々と個別の交渉をさせていただいて、これは相手があるお話ですので、どの時点で確定できるかというところはありますけれども、出来上がった

ところから速やかにそういった津波避難ビルとしての指定を進めていって、一旦は今年度内で交渉がまとまったところについては、先ほどご説明いたしました新しい津波ハザードマップの中に落とし込んでいく、それで、一度配布させていただく。それ以降も継続して、そういった交渉は続けていきながら、少しでも津波避難が難しい場所を解消していきたいと、こういった流れで進んでいくというふうに思っております。以上です。

○司会 ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 町名は若草町です。名前は■■■■と申します。私、お聞きしたいのは、津波の話はしょっちゅう危機管理室のほうに講座だとか行きまして聞いておりまして、その内容を市民に一人一人お知らせしたいんですけども、防災講座、町内会でする場合、今日のこの見た内容だとか危機管理室にお願いしたら来て、そして、またお話ししていただけるのでしょうか。

それから、もう一つは、すみませんね。苫小牧民報に出てましたけど、万一大地震で大津波が来たら、苫小牧市民26,000人死亡と出ておりましたけども、これはあくまでも想定ですけども、そういうことを考えると、苫小牧の土地は平らなので山までといたらちょっと厳しいし、やはり高い建物をところどころに建てていただく以外、港のほうに行くとか建ってる、そういうものを建てないと、もし万一起きたら大変だと思うんで、危機管理課の方、担当として、どう思っておりますか。

○司会 ありがとうございます。1点目が津波の防災の講座を依頼したら受けていただけるかという点と、2点目が、避難するときに水平避難だとなかなか間に合わないのが高い建物をということでしたので、回答のほうをお願いします。

◎危機管理室長 危機管理室の前田のほうでお答えをさせていただきます。いつもいろいろとありがとうございます。それで、まず1点目の出前講座ですけども、おかげさまでこうやってコロナ禍のほうも少し落ち着きを見せておりまして、各町内会さんのほうからこういった出前講座のお話も結構今増えてきている状況であります。もちろん、その若草団地町内会さんのほうからそういったご要望があれば、ちょっと日程調整をさせていただきます。ぜひとも私どもといたしましても、特にこの若草地区の状況はこうだということについて、ご説明をさせていただきたいというふうに思います。

それから、2点目ですけども、確かに、今年の7月に北海道のほうから被害想定というものが出されました。改めてちょっとそこを数字で申し上げますと、最悪の場合には、冬の夕方でありまして、冬の夕方に先ほどのような地震が起きると、最悪4万人が亡くなると言われてます。プラス、その上で避難者となる方が62,000人、要は、津波浸水区域の中に10万人余りの方がいらっしゃるという想定なんです。非常にこれは厳しい想定になっておりますので、そのことを踏まえまして、先ほど、■■■■のほうにもお話しさしあげましたけども、できるだけ津波避難ビル、既存の建物の活用というものもしていきたいというふうに思っております。

それから、我々としては、プラス市の公共施設の新築ですとか改築、こういうものに合わせまして、津波避難機能を付加していきたいと。それでも、先ほどご覧いただいたように、赤い

線が、津波避難が困難な場所が残るところについては、国の財政支援なんていうものもありますので、そこについては避難のための道路ですとか、避難先、こういったもの、本当にこれ大変大きな想定、数字になっておりますので、少し長期間、長期の計画になろうかと思っておりますけども、そういったところを一つ一つやっていって、何とかできる限りの対応をしていきたいということで、少し、長めの対応となろうかと思っておりますけども、そういった取組を進めていきたいというふうに思っております。以上です。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 それでは、ほかにごなにかいらっしゃいますでしょうか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 新中野町の■■■■と申します。津波避難関連のお話をお伺いしたいと思っております。一応、町として名簿が来る要介護避難者に関してなんですけど、恐らく高齢化率のほうも30%、65歳以上って、皆さん元気なんですけど、65歳ぐらいの方。30%近くになってきているという中で、要介護避難者をどこまで町内会として責任を持って、責任を持ってという自助の部分もあるので、全て責任を持つことはできないんですけど、お助けしていくような計画を立てていくべきなのかというところと、津波避難が、こういうハザードマップというような情報はやっぱりこういう町内会を通して発信されるんですけど、若い方は町内会に入っていないということと、テレビも見ない、新聞も見ないというような方がすごく多くて、情報が届いていない。伝えれば興味を持ってくれるというんですか、なかなか伝えるすべがないというところがあるので、そこら辺を市として、何かこういうふうにしたらいんじゃないかというご助言などありましたらお聞きしたいと思っております。

○司会 ありがとうございます。1点目が要介護避難者の支援について、町内会として、どうしたらいいのかという点と、2点目が、若い方がなかなか情報が届かないという点について、市のほうの考えということでお願いいたします。

◎危機管理室長 引き続き、危機管理室の前田のほうからお答えをさせていただきます。まず、この災害避難者の避難ということ、これは津波に限らず結構大きなテーマとなっております。苫小牧市では、災害弱者、介護を受けてる方ですとか高齢者の方ですとかという方のための避難行動要支援者支援制度というものを今推進しています。これは、町内会の方にもご協力いただいて、そういう避難に困っている方を、できる範囲というものがキーワードになりますけども、そういった避難のときに例えば声かけですとかそういったことをやっていこうということで、周りの人がご理解いただいた町内会様のほうとは個別の避難計画つくことで、Aさんは誰がそういう声かけをするかですとか、そういったところも今やっております。ちょっと申し訳ございません。今新中野の町内会さんのところ、その取組はどこまで進んでるかというところ、後ほど、私も確認させていただきますけども、今複数の町内会さんでそういう個別具体のお話をさせていただいて、各町内会さんの事情もありますので、各町内会でどこまでができるんだということをお話しさせていただきながら、先ほど申し上げましたような声かけですとか、あるいは、先ほどのテーマプレゼンの中でも基本的には徒歩避難と言いましたけども、そういう災害弱者については、車

避難をするのですとか、そういうことも、今私どもの各町内会様の事情を聴きながらそういうお話をしておりますので、もしも、まだそのお話が新中野さんのほうでしていないということであれば、改めてお声がけいただいて、そういうことを進めていきたいというふうに思っております。

それから、若者に対する災害情報、これもなかなか難しいお話なんですけど、この数年、私どものこの情報発信の中でも、例えばSNSですね、フェイスブックの活用ですとか、令和2年3月からLINEというのも、公式のLINEなども始めておりますので、何とかそういったものを少し興味を、まずは興味を持っていただくということが大事なんですけども、そういったものに登録をいただいて、何とか情報を取っていききたいという気持ちはありますので、そういったものの周知をこれからも頑張らせていっていきながら、そういった情報を充実していきたいというふうに考えております。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 末広町の■■■■です。うちの町内、何かあったら避難は東中学校ということだったんですが、津波については若草小学校に、しかしながら、災害の種類によって避難する場所が違うというのは非常に分かりにくいですね。やっぱりどっか近くのところにここというふうにしないと、災害によって違うというのが、その辺、今回、垂直避難も考えるということですので、ぜひまとめて、うちの町内はどこというふうにしていただきたいのと、それは要望したいと思います。

もう一つ、今まで東日本大震災以来、地震、それで津波ということばかりやっていますが、もともとは苦小牧はそれよりも樽前山が大変だということですからずっと来てたというふうに思いますが、樽前山の状況というのは、もう大分前から言われておりますが、どういう今状況なのか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○司会 ありがとうございます。1点目については災害の種類にかかわらず同じ避難場所がよいのではないかとこの要望と、2点目が樽前山の現在の状況についてということで回答お願いいたします。

◎危機管理室長 ご質問ありがとうございます。危機管理室、前田のほうからお答えをさせていただきます。

まず、1点目は避難所を各災害含めて1か所にならないかというお話でありましたけども、なかなか苦小牧市が直面する災害リスクというものが、非常にいろんなものがある、2点目のお話にあった火山もある、津波もある、直下型地震もある。あるいは土砂災害があるということで。当初、私どもとしてはそれぞれの災害の逃げ方に合った場所ということを考えてときに、津波の場合には、特に今回の末広町内会であれば、水平避難で遠くへ行っていたきたいという思いで、津波だけは若草小学校という言い方をしておったんですけども、今回の新しい想定の中では、若草小学校にも浸水区域になりましたので、そういった意味では、今後については、まずは近場の東小学校であれ東中学校であれというところを目指していただきたいというふうに、そこは周知していきたいというふうに思っております。

それから、2点目の樽前山の噴火でありますけども、樽前山、非常に登りやすい山ではありま

すが、全国有数の活火山です。北海道にも9個ある常時観測火山ということで、非常に噴火すると大きな被害が出る火山と言われております。この樽前山については、2000年頃から山頂の溶岩ドームの辺りが昔は200度ぐらいだったのが6600度まで上がったんです。上がった状態が下がってくればいいんですけども、今でも500度台、下がり切ってないんですね。専門家の先生方のお話を聞きますと、いつ小規模噴火ですとか中規模噴火、中規模噴火でいうとアルペンぐらいまで火砕流というものが起こる可能性、これについてはあるかもしれない。ただ、昔から言われているような大規模噴火ですね、市内一円に溶岩が、火砕流が来るような、その可能性は少ないけれども、そういう河口の周辺の温度が高いので、小規模噴火、中規模噴火の可能性については、覚悟しておいたほうがいいなということが言われております。そういったことも含めまして、危機管理室としては、様々な災害リスクというものを踏まえながら、今ちょっと津波に大分注力してきますけども、様々な災害リスクのある苫小牧ということを含めて、皆様に周知をしていきたいというふうに考えております。以上です。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 ほかにどなたかいらっしゃいませんか。もしいらっしゃらなければ、意見交換終了したいと思います。よろしいでしょうか。それでは、意見交換のほう終了させていただきます。

最後に、本日、まちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 テーマプレゼン聞いていただき、そしてご質問、ご意見等々いただきまして誠にありがとうございました。今当時のまちかどミーティングで何度かお話しした話なんですけど、11年前に東日本大震災があったときに、私自身も当時市長としてびっくりしたんですが、苫小牧の各町内会にある自主防災組織、組織率が70%を超えていたんです。人口10万以上の道内の都市で断トツの数字でした。今は90%を超えています。なぜ、そういう意識、西側の町内会から自主防災組織がぐっと立ち上がっていったんですが、それはやっぱり樽前噴火なんですね。樽前は噴火の規則がない山と言われてはいますが、西側の町内会から非常に自主防災組織率が高くて7割超えていた。つまり、そんなにその意識、低くはないというふうに考えています。それに加えて、その後、東日本大震災で地震、津波ということで今日に至るわけでありまして、一人でも多くの皆さんに万が一のとき命を助かるための行動というものを、我々、市民の皆さんの安心、安全、命を守るというのが一番の我々の役目でありますので、引き続きこれからもそういう視点でいろんな取組に励んでいきたいなというふうに感じながら、今日、いろんな質疑を聞かせていただきました。

これからも何かありましたら、ぜひ安心安全、あるいは津波、地震等については危機管理室のほうに問い合わせしていただければなというふうに思います。それでは、最後に、今日、木村副市長、1回も発言してないです。全く発言してない。木村のほうからお礼のご挨拶を。

◎副市長 皆さん、おぼんでございます。副市長の木村でございます。この頃、市長からのこういうむちゃ振りが多くて、大変喜んでおりますけども、この地域、やはり津波に関しましては、海に近

い地域が多いですので、ご心配の気持ちというのは本当にごもつともだと思っております。そこは野見山本部長、それから前田危機管理室長を含めて危機管理室の中でしっかりと地域の皆さんと協議を重ねながら取組を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、事前要望も含めて、やはりこれは地域の方々が住んでいる中で、地域、市民生活に直結するような要望ばかりだと思っております。当然にも市として、すぐできることは対応させていただきたいと思っておりますし、また、なかなか市の直轄ではないほかの組織でも対応の部分についてはそこをしっかりと話を通していく、それから、なかなかすぐにはできないことについては皆さんにも相談させていただきながら、時間はかかってもどういった形でできるかということをはしっかりと検討させていただきながら、前に進める対応を図っていきたいと思ひますので、これからもひとつ職員、誠心誠意、仕事に取り組んでおりますので、何なりといろいろとご要望ありましたらお申しつけいただければと思ひます。ということで、皆さんに本日のお礼と言ひながら、本日のまちかどミーティング、終了させていただきたいと思ひます。本日は誠にありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。ご帰宅後には手洗い、うがいを徹底していただきますようお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。